

Ⅲ 管理運営状況

本所は開所より45年以上経過しており、経年劣化による建物、付属設備の修繕が増加しており、配分された予算では改修できないものも多く、大規模な修繕工事や設備整備、大型機器の更新には着手できない状況です。また、コロナ禍の時期と比較すると利用者数は増加しているものの、それ以前と比較すると少子化や自治体の方針等により学校利用が無くなるなど利用者は減少しており、それに伴い収入も減少しています。

「運営費交付金」は毎年、一定の算定ルールで減額され続けるため、施設を維持し続けるためには、「運営費交付金」による支出を削減し「自己収入」を増やしていく必要があります。令和5年度は、業務契約の見直しや取引先の拡大、光熱水料や通信費の節約に努め、職員自らが整備、修繕作業等を行うことで経費節減を図ったり、特定研修活動(ICAP)の利用促進や民間企業との共催や協賛による自己収入の拡大を図ったり、寄付(金)のお願いしたり、クラウドファンディングにも挑戦したりするなど新たな収入を確保する取組を行いました。

(1) 支出削減に向けた取組

① 建物等の補修

破損していた交流の広場の灰置き場の屋根を職員で改修しました。また、机や椅子によって窪んでしまった野外炊事場土間をセメントや砂を購入し、モルタル補修を行いました。

このほか、施設内や活動エリアの看板補修や建具の修理・調整、玄関タイルの張り直しなど、様々な修繕・補修を可能な限り職員の手で行いました。



② 備品の点検・整備

野外炊事で使用する鍋や食器類を、レストランの食器洗浄機を使って洗浄・滅菌を行いました。冬季は野外炊事場を利用する利用者が少なく、保管する期間が長くなるため、衛生面の保持や破損がないか利用者の安全面を考え職員総出で行いました。

ほかにも包丁を研いだり、備品の保守点検(PA コース木製エレメントへの防腐剤塗布やキャンプ用品や教具などのメンテナンス)を定期的実施し、長期間安全に使用できるよう努めています。



③ 活動エリアの整備

活動エリアの大規模な森林間伐により、オリエンテーリングやウォークラリーのコースが荒れてしまったため、歩道や階段(足場)の整備を行いました。

また、刈払い機やチェーンソーを使って雑草、倒木の除去など、建物等の補修と同様に職員自ら環境整備を行いました。



(2)収入増加等への取組

①民間企業との業務提携

(公財)九電みらい財団からの委託業務を締結しました。近隣にある「いさはや九電みらいの森」や自然の家のフィールドを活用し、県内外の子供たちに環境保全意識の啓発を目的とした環境教育を行いました。

今年度は2回のみの実施でしたが、次年度以降も継続して実施することから、受託収入の増加が期待できます。



②事業への協賛金・協賛品の獲得

株式会社モンベルと青少年教育振興機構との連携事業「SEA TO SUMMIT FOR Children 2023 in 諫早」においては、本所からの働きかけに多くの民間企業等から賛同をいただき、協賛金、協賛品、協力を得ることができました。協賛金は施設使用料やレンタカー、講師謝金、MTB点検、消耗品等の購入に使用させていただきました。



【協賛(順不同敬称略)】

丸高商事株式会社、檀野医院、諫早小学校区社会福祉協議会、諫早市自治会南支部、諫早市自治会連合会小栗支部、株式会社瀬尾工務店、株式会社諫早スイミング、株式会社石橋工業、株式会社ウイングス、居酒屋えりんち、有限会社廣谷環境開発、宮本外科、公益財団法人九電みらい財団、諫早市医師会、ミサワホーム株式会社、似顔絵 art-TANO-、株式会社たらみ、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社、チョーコー醤油株式会社、洋菓子エトワール

【協力(順不同敬称略)】

長崎県カヌー協会、大村湾漁業協同組合多良見支所、長崎県県央振興局諫早湾干拓堤防管理事務所、多良岳を愛する会、金泉寺山小屋の会、竹野鮮魚店

③クラウドファンディングの実施

本所では高校陸上部の利用が多いこともあり、様々なトレーニングや大会にも使えるようなクロスカントリーコースを整備したいという思いから、クラウドファンディングに挑戦しました。

結果的には目標金額に届かず、クロスカントリーコースを整備することは出来ませんでした。多くの方々から支援していただき、設置の要望も強いことから、今後も整備に向けた取組を続けていく予定です。

国立諫早青少年自然の家
森のクロスカントリーコースを作りたい！
クラウドファンディングで！
目標金額 120万円
長崎陸上競技協会
も応援しています！
今は整備中なのでなかなか走れるように
走れるように
支度はこちらから！
※CAMPFREのサイトに登録します
※お申し込みは2023年10月1日より受付
コース完成図
青線：新設コース
赤線：整備予定コース
黒線：既存のコース
赤・青のコースを合わせて1500mになります
事業概要
自然の家いこいの敷地路を整備・延長し、1500mのクロスカントリーコースを設置
支援者特典
共通：修繕費、事業報告書の贈呈、オープニングセレモニーへの参加・ご挨拶
・3000円
共通+コース利用回数券(10回分1000円相当)
・5000円
共通+コース利用回数券(20回分2000円相当)
・10000円
共通+コース利用回数券(50回分5000円相当)
お問い合わせ:国立諫早青少年自然の家
Mail:isahaya-su@niye.go.jp
TEL:0957-25-9111

(3) 寄附の受入れについて

「公益財団法人松園尚己記念財団」からの寄贈により、令和6年3月6日につどいの広場を改修した屋外バスケットボールコートが完成しました。

諫早の山や海、川の流れなど自然をイメージしたカラフルなデザインのバスケットコート(TRESUREコート)や遊びながら楽しく学べるようペイントされたスペース、更には観戦ができるモニュメントなど、思いっきり体を動かしたり、寛げたりとこれからのニーズに対応した斬新な空間へとリニューアルされました。



3月20日には、公益財団法人松園尚己記念財団理事長 松園和子氏、国立青少年教育振興機構 古川和理事長をお迎えし、オープニングセレモニーを行いました。その後、カテゴリー別にバスケットボール3×3の大会を開催しました。県内外から38チームの参加があり、新しくなったつどいの広場に、歓声と笑顔が満ち溢れていました。



(4) 今後の取組について

運営費交付金が毎年減額され続ける中で、今後はいかに支出を抑え、自己収入を増やすかが課題となります。建物、設備の修繕や整備作業など職員でできるものは自ら行うことのほか、業務委託等の契約内容の見直しや、維持管理にかかる費用を抑えるために思い切ったダウンサイジングやスクラップも検討する必要があります。

収入については、新たな財源として令和6年度から施設使用料を徴取することになります。しかし、利用者が増えなければ収入増には繋がらないため、サービスの質の向上・安全性の確保を優先し、立地やプログラムの特性を活かした事業・運営を展開することや外部資金獲得のために多様なアプローチを行うなど、財務状況の改善に向けた取組を行っていきます。